こんにちは！

地域おこし協力隊に着任しました。

諸岡佳紀（もろおか よしき）

1984年、佐賀県生まれ。京都の大学を卒業後、金融業界、新聞社で10年間勤務。小郡市に住む友人の影響で、まちの魅力を身近に感じ、地域おこし協力隊に興味を抱く。35歳の節目に一念発起で応募。

小郡市へ移住し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなど、地域協力活動を行う「地域おこし協力隊」。

８月から新たに、農業分野“地産地消コーディネーター”として諸岡佳紀さんが着任しました。これから地元農作物をより多くの人に知ってもらう活動や、特産品開発に挑んでもらいます。

小郡産の農作物を、より多くの消費者へ届けたい

小郡市のみなさまこんにちは！小郡市農業振興課へ配属された地域おこし協力隊の諸岡佳紀です。これまでに金融機関で7年、新聞社で4年勤務するなど、流浪の転職歴があります。縁あって8月から小郡市で働くことになりました。

課せられたミッションは「市産の農産品を扱う産直の活性化」と、「地産地消を実現する農産品のプロデュース」。着任から2か月で農家を40件ほど回りましたが、電話で訪問するためのアポイントを取る際に、「地域おこし決死隊？」「まちづくり応援隊？」「あんた、本当に市の職員ね？」と、不審がられることもしばしば。

まずは、自分の仕事や立場、キャラクターを理解してもらいつつ、ネットワークの輪を広げ、地元の新鮮な農作物を消費者へ届けるために、オリジナリティあふれる試みを行っていきたいと思います。めざすのは地域に溶け込み、愛される存在！金融・マスコミ、異色の経歴で培ったフットワークを武器に、焦らず、怠けず、地道に市の発展に尽力しますので、よろしくお願いします！

市民の皆さんへ

小郡市で暮らし、日々活動しています

●普段の活動

農家に出向きお話を聞いています。大崎地区のイチジク農家では収穫体験も。自然相手の仕事の醍醐味を味わいました。

●取材時の必需品

5年愛用しています！記者だった頃、このレンズに子どものほのぼのとした笑顔から謝罪会見まで、いろいろと写してきました。

●市内の好きな風景

心和む好きな風景は、ズバリ「宝満川」です！地元農家に恵みを与える一方で、自然災害として脅威になることも…。日頃から防災の心がけを！

●趣味は「落語」

僕の趣味は「落語」。大学の落研出身で、一時は本気で落語家をめざしていました。師匠に入門するか迷ったほど。

気軽に声をかけて下さい！ モロ

小郡の

まちと暮らしとシゴト。

あちこち出没中！

小郡市地域おこし協力隊による活動報告コラム。

no.04

宮本亜里沙（みやもと ありさ）

1989年生まれ。高校卒業後、地元熊本を離れ、東京で飲食店のイベント企画や舞台制作を経験。移住相談センターで小郡市職員と出会い、それをきっかけに小郡市の地域おこし協力隊に応募。夜は小郡市内酒場エリアに出没中！

日々の活動を配信中！

小郡市地域おこし協力隊

here.is.ogori

小郡市地域おこし協力隊

七夕の里を舞台に、宝満川の植物で紡ぐ「七夕織」

皆さんは“チョマ（苧麻）”という植物をご存じですか？麻の一種で、茎から繊維が取れる植物です。なんと、これが小郡市を流れる宝満川沿いに自生しているのです。教えてくれたのは、小郡市山隈にある織り工房、『翔工房』の田篭みつえさん。このチョマから繊維を取って糸を紡ぎ、織ったものを“七夕織”と名付け、まちおこしの活動をされています。

小郡といえば、「七夕の里」。そして七夕といえば、織物が上手な神様“織姫”です。この地で機織り機を使った手織りの技術が紡がれていることはとても意味深く、また小郡に繊維となる植物が自生していることも運命的です。

このような背景から生まれた体験プログラム「宝満川から布を織る」は、チョマを採取するところから始まり、茎の繊維で糸を作り、織り機で布を織るというもの。参加した皆さんと、目下企画中のはしご酒イベントで使うおちょこホルダーを作ってみました。特製おちょこがすっぽりと入る大きさ。手間暇かけて作った渾身のおちょこホルダーを皆さんに見てもらえるよう、魅力的なイベント作りにもさらに気合いが入るのでした。

Ogostagram

日々の活動記録。
体験プログラム「宝満川から布を織る」

❶糸の素材を探しに、鎌を持って宝満川へ。チョマは、背が高く葉っぱの裏が白いのが特徴です。あっという間に大量のチョマが採取できちゃいました。

❷茎だけになったチョマ。葉っぱは茎の先端を持って根っこに向かって手をスライドさせるとパラパラと簡単に取ることができます。色は綺麗な緑色です。

❸チョマの茎を剥いだら、スプーンやフォークの柄を使って繊維を取り出し、糸を作っていきます。これが難しい！水で湿らせながら、繊維をつなげます。

❹できあがった手作りの糸。始めは緑色をしていますが、葉緑素が抜けると白っぽく変色していきます。自然由来独特の味わいある風合いが素敵です。

❺糸ができたら、あとはひたすら織る、織る、織る！足を踏みかえながら、トントンと織っていきます。この作業に入るとみんな我を忘れて没頭モード(笑)。

❻みんな根気よく、最後まで織り続けることができました。懇切丁寧に教えてくださったみつえ先生、工房の皆さま、本当にありがとうございました。